Windows AIKを使用したPE2.0 ベースの起動CD作成方法

この資料では、マイクロソフト社から提供されている Windows AIK（自動インストールキット）を使用して、Windows PE 2.0 ベースの起動 CD を作成する方法をご紹介します。Image Backup や LB コピー コマンダーなどの製品 CD やリカバリーメディアは、主に DOS や Linux 環境で動作するため、ご利用の PC によっては、CD 起動できなかったり、CD 起動後にハードディスクが参照できないなどの問題が発生する場合があります。Windows AIK を利用すれば、Windows PE2.0 ベースの起動 CD を作成することができますので、より柔軟にハードウェアに対応できるようになります。

■ 注意事項

本資料、本資料によって作成された起動 CD は、サポート対象外になります。一切のサポートが提供されませんので、予めご了承ください。

■ 必要な環境

- Windows XP(KB926044 適用済み)、もしくは Windows Vista がインストールされた PC
- .img ファイル、.iso ファイルが書き込めるライティングソフト
- CD-R と書き込み可能なドライブ
- C ドライブに 3GB 以上の空き領域

■ 目次

1. 対象となるライフボート製品のインストール 2
2. Windows AIK（自動インストールキット）のダウンロードとインストール 2
3. バッチファイルの実行 7
4. 作成されたISOファイルの書き込みと起動確認 10

補足① .imgファイル、ISOファイルの書き込み方法 12
補足② ネットワークのアクセス方法 15
補足③ ドライバの追加方法 17

1. 対象となるライフボート製品のインストール

LB Image Backup 8、LB コピー コマンダー9、LB ドライブワークス 9 など起動 CD を作成する対象となる製品をインストールしてください。インストール方法については、製品に同梱されている利用ガイドをご参照ください。

※ 必ずVista対応版をインストールしてください。それぞれの製品の最新バージョンは以下のサイトからダウンロードすることができます。

http://www.lifeboat.jp/download/download.html

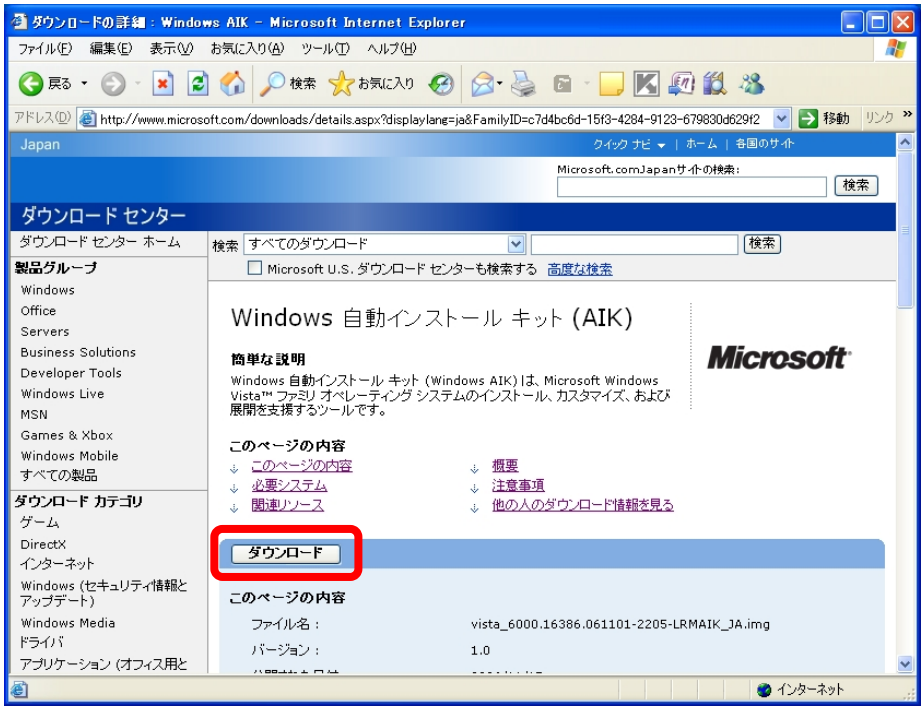
※ 製品のインストール先はデフォルトのディレクトリ（通常は C:¥Program Files¥LB 配下）から変更しないでください。

2. Windows AIK（自動インストールキット）のダウンロードとインストール

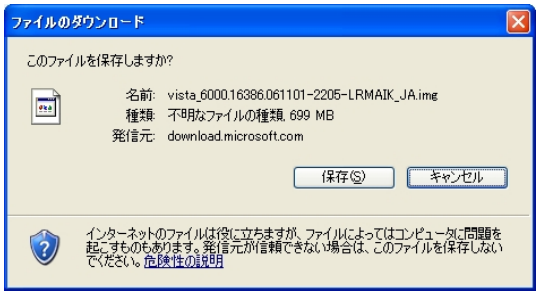
（1） 以下のサイトにアクセスします。

http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=c7d4bc6d-15f3-4284-9123-679830d629f2

（2） [ダウンロード]ボタンをクリックします。



（3） 以下のダイアログが表示されるので、任意の場所に保存します。



※ ファイルサイズが 699MB なので、ネットワーク環境によってはダウンロードに時間がかかります。

（4） ダウンロードされたファイルは CD のイメージ（img）ファイルになっていますので、そのままでは使用できません。任意のライティングソフトで CD-R に書き込みます。

※ ライティングソフトによっては、拡張子が img のファイルを利用できない場合があります。その場合には、拡張子を iso に変更してからお試しください。

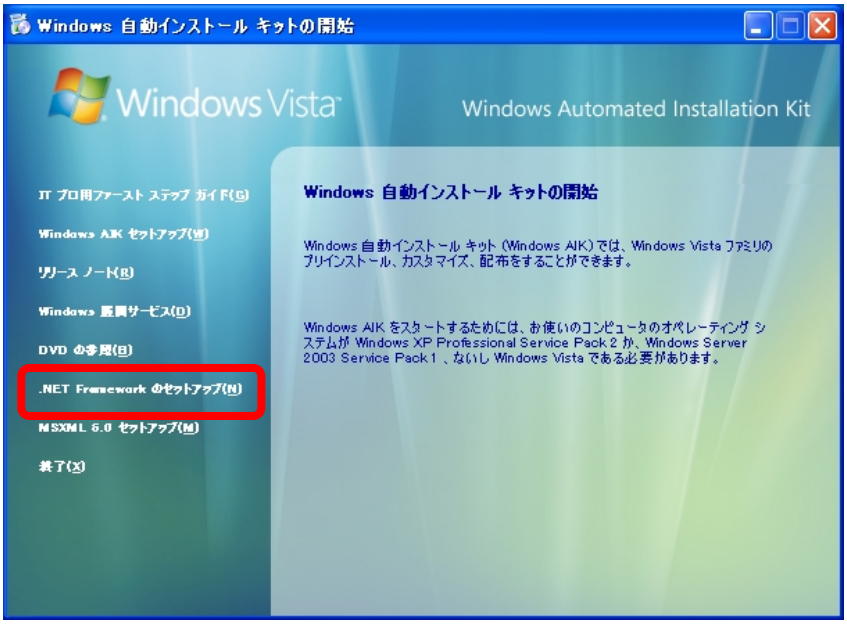
※ 書き込み方法が分からない方は、補足①をご覧ください。DeepBurner というフリーソフトを使用した書き込み方法をご紹介しています。

（5） 書き込みが終了したら、CD をドライブにセットします。以下の画面が表示されます。

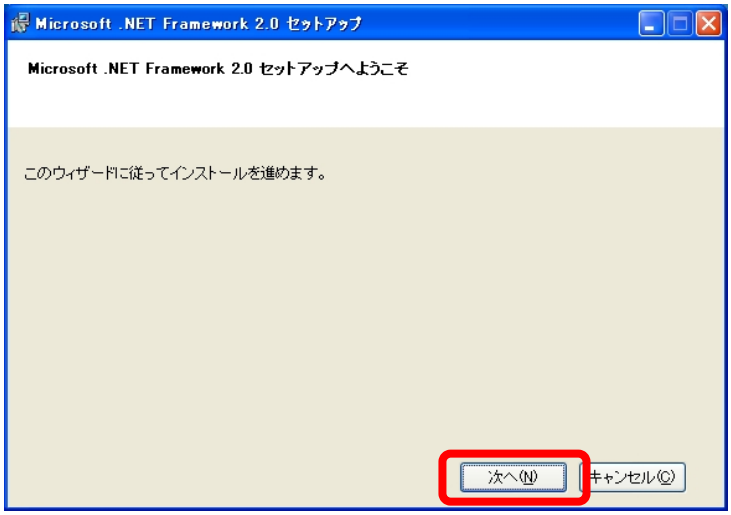
※ 表示されない場合には、直接 CD 内を参照して『STARTCD.EXE』を実行してください。

OS が Windows Vista の場合には、(11)へお進みください。Windows XP の場合には、Windows AIK をインストールする前に、『.Net Frameworks』と『MSXML 6.0』をインストールする必要がありますので、このまま操作を進めてください。

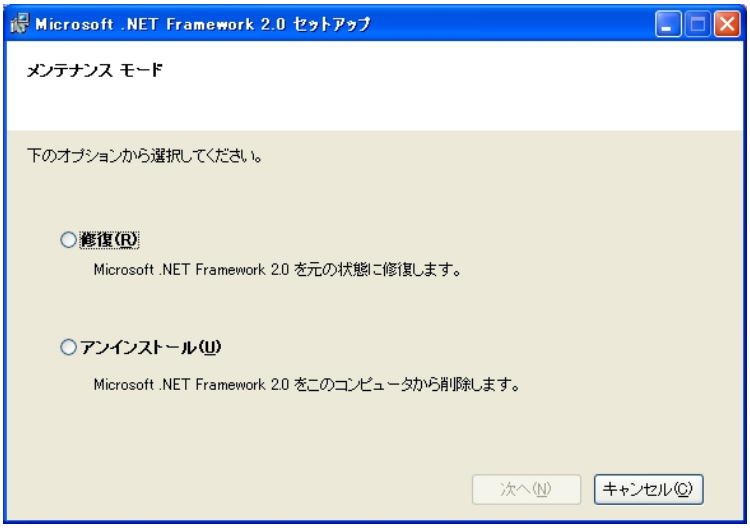
（6） 『.Net Frameworks のセットアップ』をクリックします。



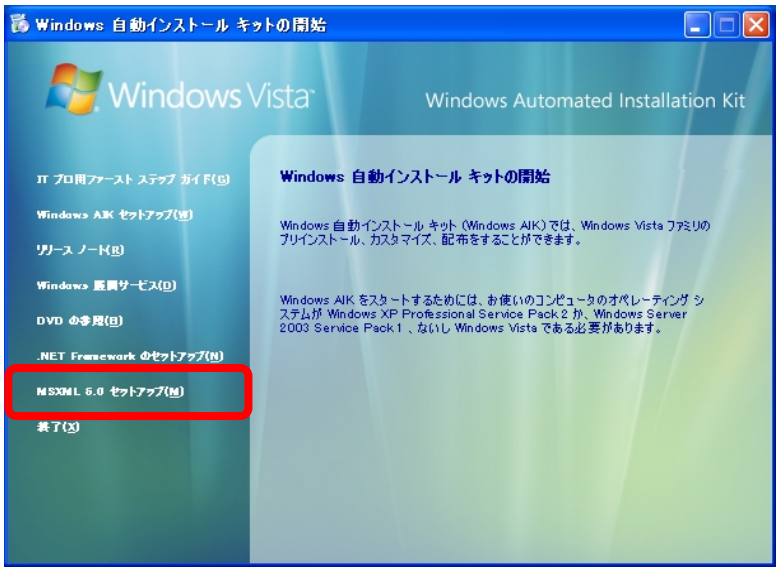
（7） 以下の画面が表示されるので、画面の指示に従いそのままインストールしてください。



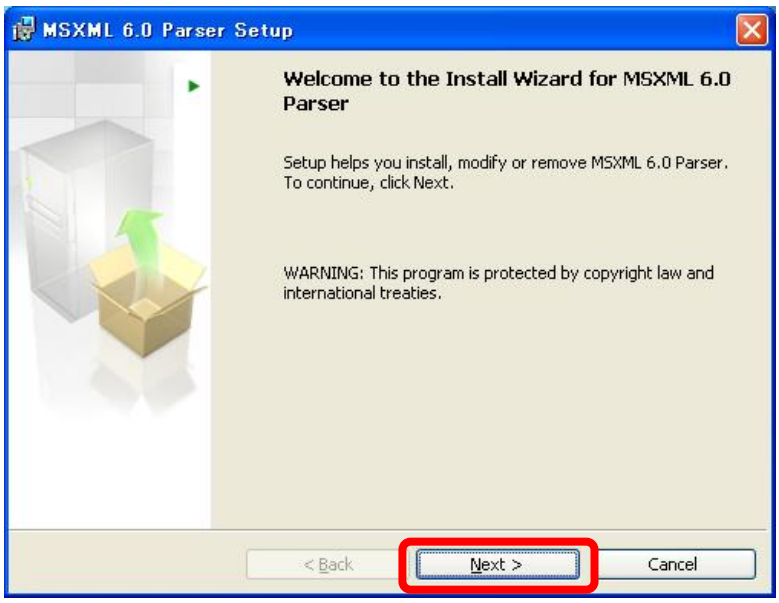
※ 既に.Net Frameworks がインストールされている場合には、以下の画面が表示されます。その場合には、キャンセルを選択して、(8)の MSXML 6.0 のインストールに進んでください。



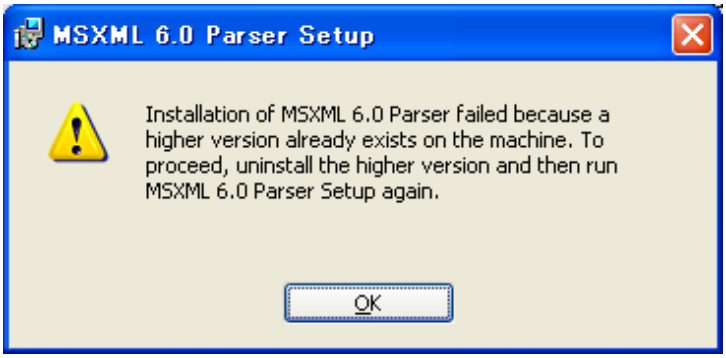
（8） 次に MSXML 6.0 をインストールします。『MSXML 6.0　セットアップ』をクリックします。



（9） 以下の画面が表示されます。[Next]をクリックします。



※ 既に MSXML 6.0 がインストールされている場合には、以下の画面が表示されます。その場合には、[OK]をクリック、さらに[Finish]をクリックしてインストールを終了します。(11)の Windows AIK セットアップに進んでください。



（10）次の画面では、[I accept the terms in the license agreement]（使用許諾に同意する）を選択して[Next]をクリックします。後は、[Next]、[Install]ボタンをクリックすれば、インストールが完了します。

（11）Windows AIK をインストールします。[Windows AIK セットアップ]をクリックします。

（12）画面の指示に従いインストールを完了させます。

※　インストール先を変更すると起動 CD が作成できなくなります。必ずデフォルト設定のままインストールしてください。

以上で、Windows AIK のインストールは完了です。[Windows 自動インストールキットの開始]ウィンドウを閉じて、CD を取り出します。

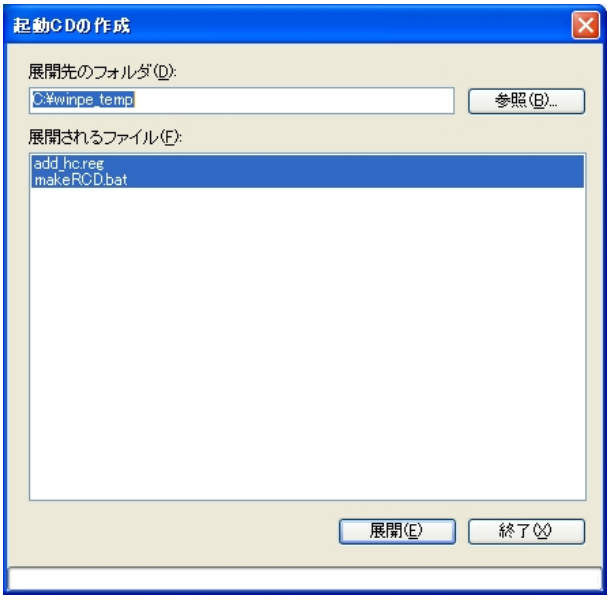
3. バッチファイルの実行

（1） 以下のサイトから、対象製品のwin_temp.exeファイルを任意に場所にダウンロードしてください。

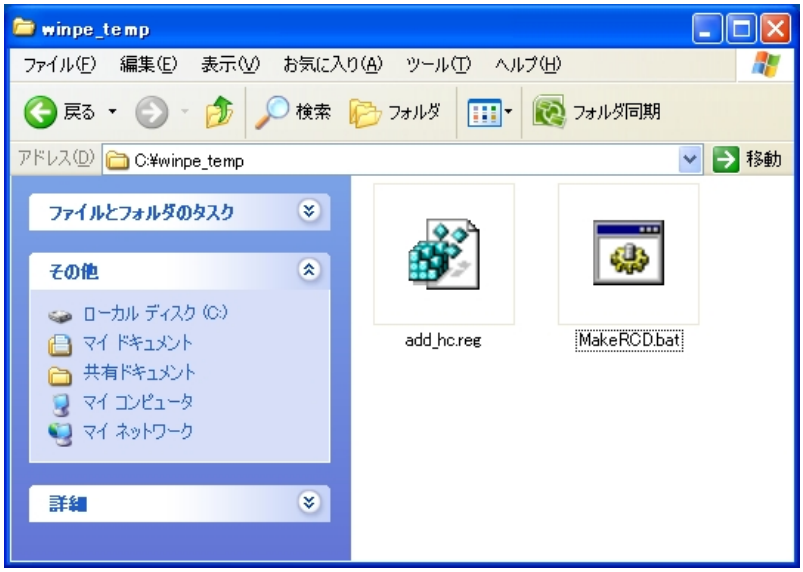
http://www.lifeboat.jp/support/db/011080228001.html

（2） ファイルをダブルクリックして実行します。以下のダイアログが表示されます。展開先のフォルダが、C:¥winpe_temp に設定されていますので、このまま[展開]ボタンをクリックします。展開が完了すると、このウィンドウは自動的に閉じます。

※ 展開先は変更しないでください



（3） マイコンピュータから、Cドライブを参照して winpe_temp フォルダを開きます。以下の 2 つのファイルが確認できます。

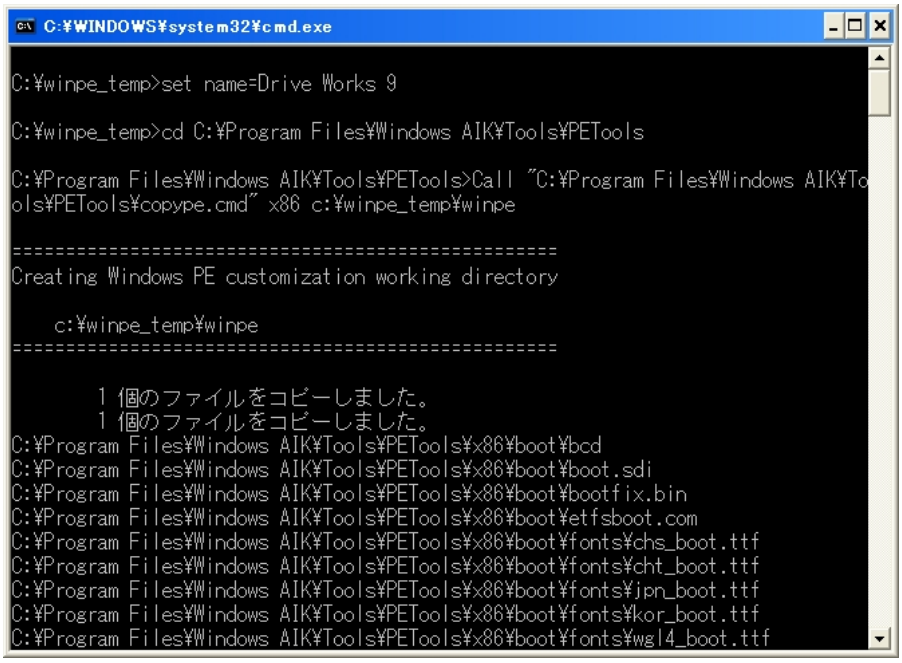


【ファイルの実行前に】

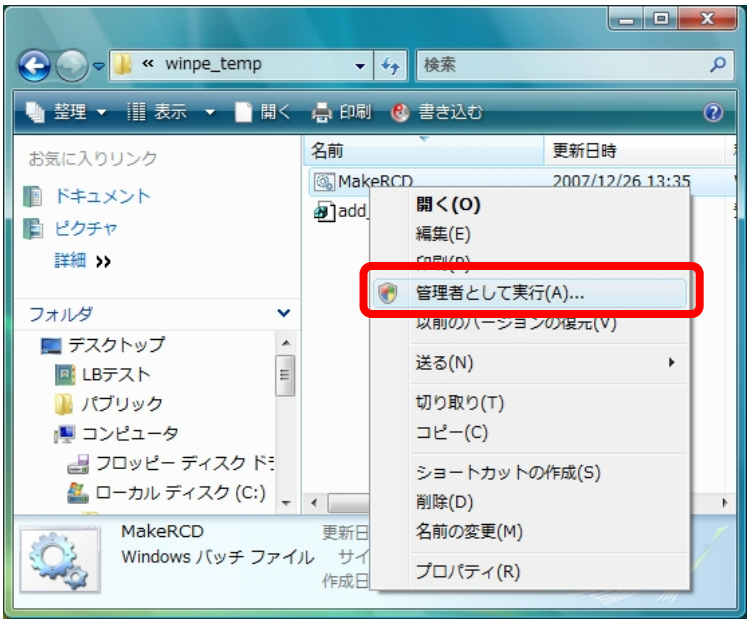
※ Windows Vista の場合には、ファイルを[管理者として実行]する必要がありますのでご注意ください。

※ アンチウィルスソフトが原因で処理が完了しない場合があります。可能であればアンチウィルスソフトは停止した状態で、ファイルを実行してください。

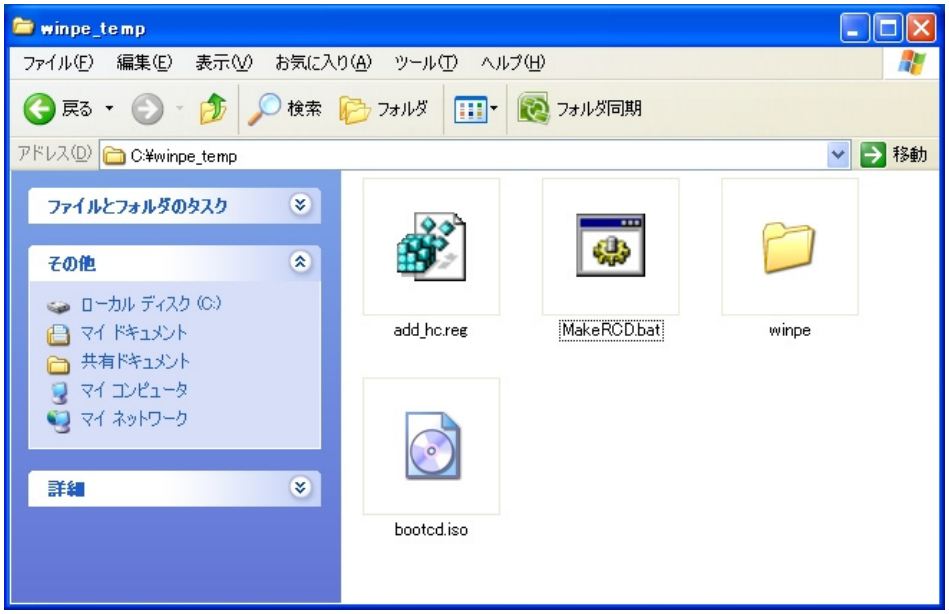
（4） [MakeRCD.bat]ファイルをダブルクリックして実行（Vista の場合は、右クリックのメニューから[管理者として実行]を選択）すると、以下の画面が表示され処理が開始されます。処理には時間がかかりますので、しばらくお待ちください。



※ Vista の場合は、ファイルを右クリックして、表示されたメニューから、[管理者として実行]を選択して実行してください。



（5） 処理が完了すると、画面が自動的に閉じられ、[winpe_temp]フォルダに bootcd.iso というファイルが作成されます。



※ 何らかの問題が発生して処理をやり直す場合には、[winpe_temp]フォルダ自体を削除してから再度実行してください。

4. 作成されたISOファイルの書き込みと起動確認

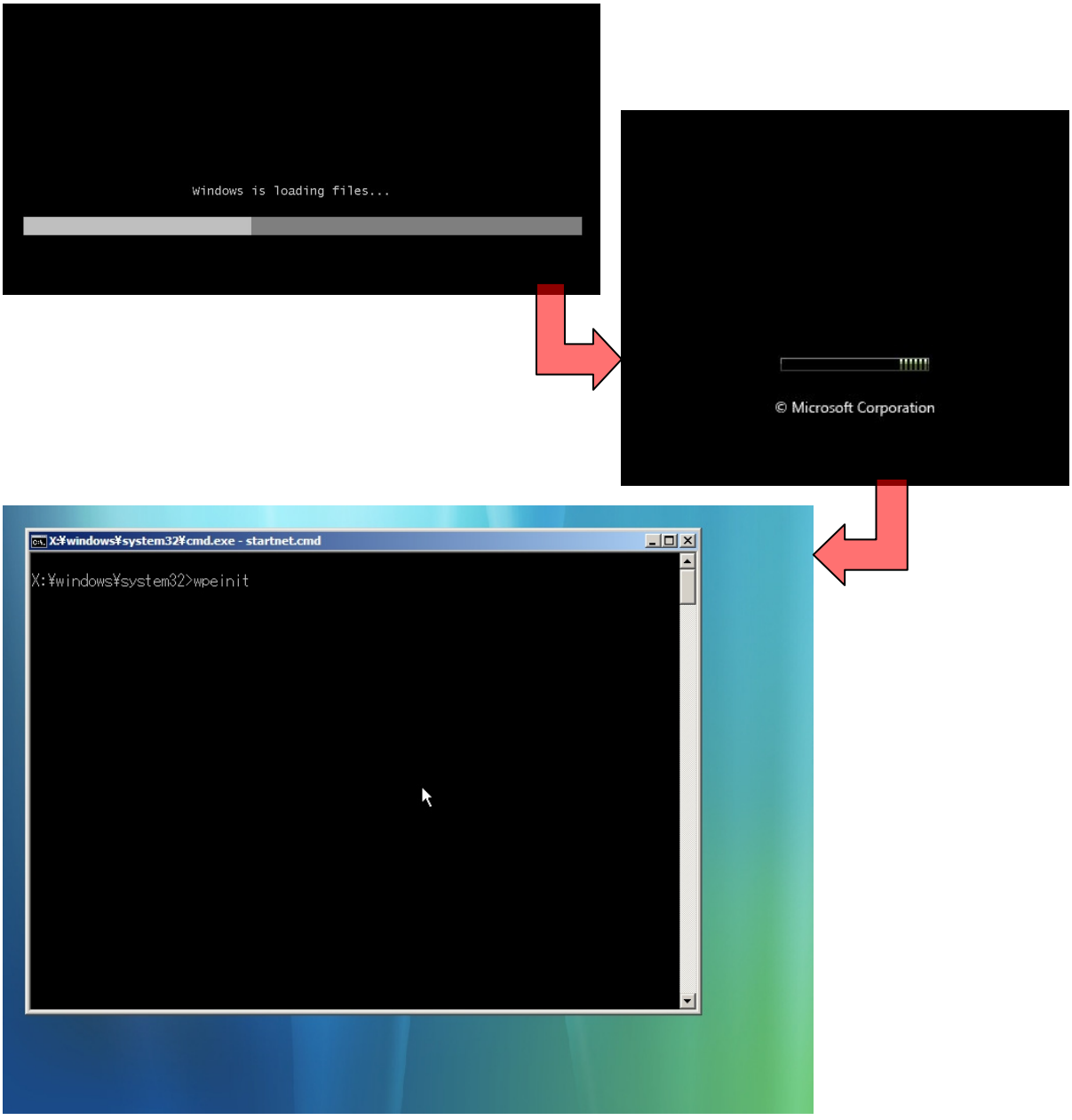
（1） 作成された bootcd.iso ファイルを任意のライティングソフトで CD-R に書き込みます。

※ ISO ファイルの書き込み方法が分からない方は、補足①をご覧ください。DeepBurner というフリーソフトを使用した書き込み方法をご紹介しています。

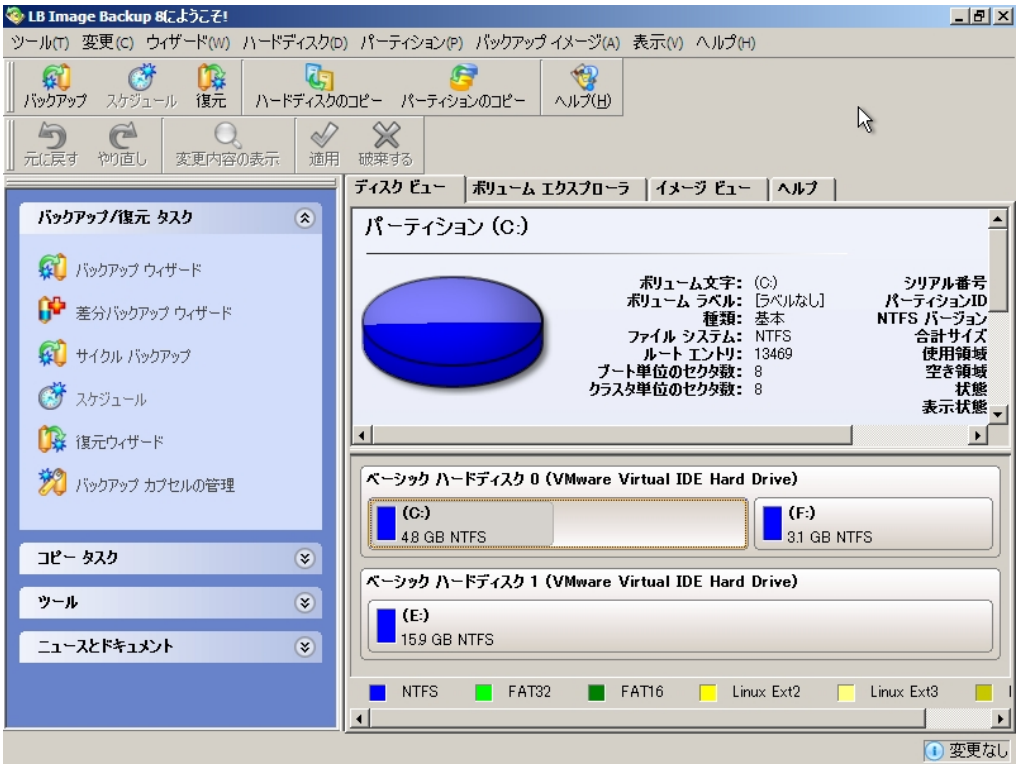
（2） 書き込みが終了したら、CD をドライブにセットして PC を再起動します。CD からブートされ、『Press any key to boot from CD or DVD...』が表示されます。このメッセージは数秒間しか表示されませんので、すぐに何かキー(例えば<Enter>キー)を押してください。

※ この画面が表示されない場合には、BIOS の設定画面で最初の起動デバイスが CD/DVD ドライブになるよう設定してください。

（3） 以下のような画面が表示されます。



（4） しばらく待つと LB Image Backup など、組み込んだ製品が自動的に起動します。



（5） 基本的な操作方法は、Windows 上と同じになりますので、以降の操作は利用ガイドなどを参考に行ってください。終了するときは、起動しているプログラムを終了して、コマンドプロンプトの右にある[×]をクリックしてください。

すべての確認が終了しましたら、C:¥winpe_temp フォルダは削除してください。

作成された起動 CD を利用する上での、基本的な注意点は以下の通りです。

- メモリは 512MB 以上搭載されている PC でご利用ください。
- ハードディスクの認識順序が Windows 上とは異なるため、外付けのハードディスクが 1 番目のハードディスクとして表示される場合があります。
- ドライブ文字（C:など）が Windows 上とは異なる場合があります。
- ネットワークへのアクセス方法が Windows 上とは異なります。詳細は補足②をご参照ください。
- ご利用のハードウェアによっては、ハードディスクが正しく認識されなかったり、ネットワークにアクセスできない場合があります。その場合には、補足③の手順を参考にドライバを追加してください。
- この CD から起動した時には、インストールした場合と比べて以下の制限事項があります。
  - スケジュール機能(バックアップ、コピー)は使用できません。
  - サイクルバックアップは使用できません。
  - 電子メールによる通知機能が使用できません。
  - 電子メールによるログ送信機能が使用できません。
- この CD から起動時した場合には、72 時間以上使用することができません。起動から 72 時間後に、自動的に再起動されます。

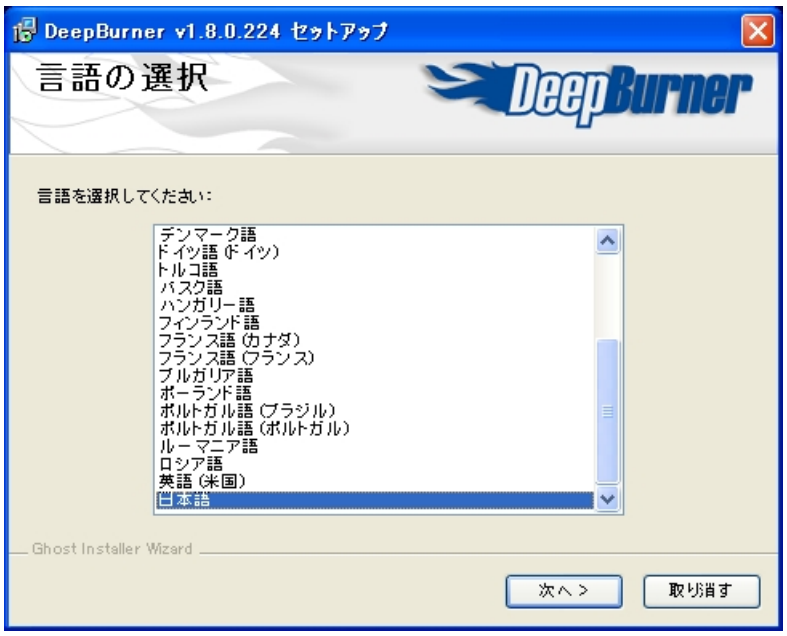
補足①　.imgファイル、ISOファイルの書き込み方法

ここでは、DeepBurner を使用したイメージファイルの書き込み方法をご紹介します。

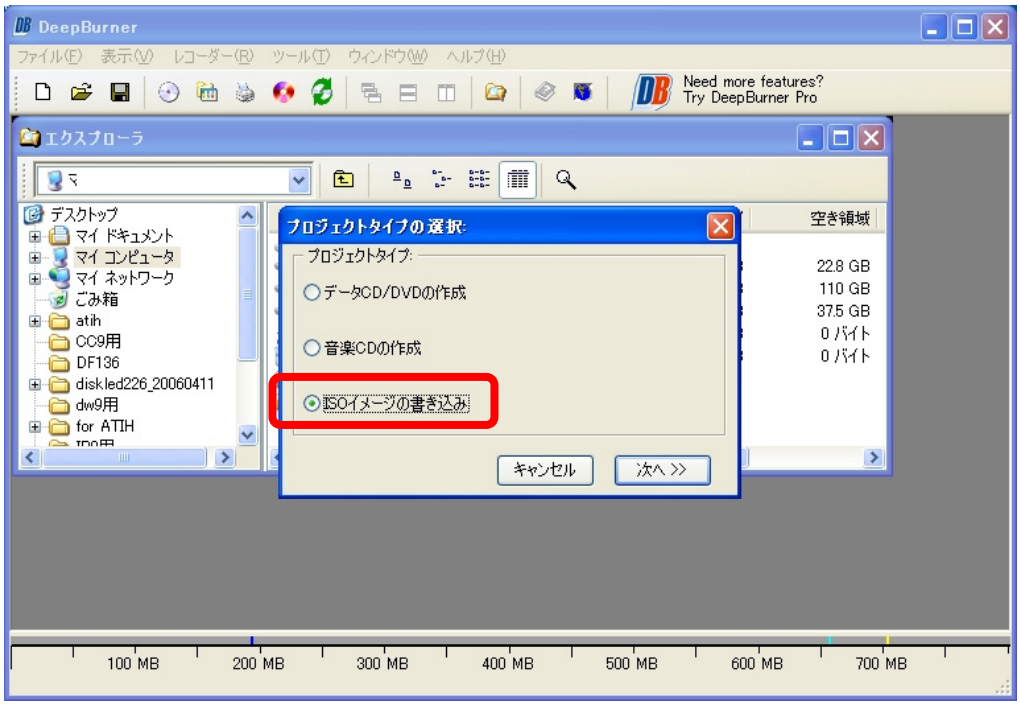
（1） DeepBurnerを窓の杜などでダウンロードします。

http://www.forest.impress.co.jp/lib/sys/hardcust/cddvdburn/deepburner.html

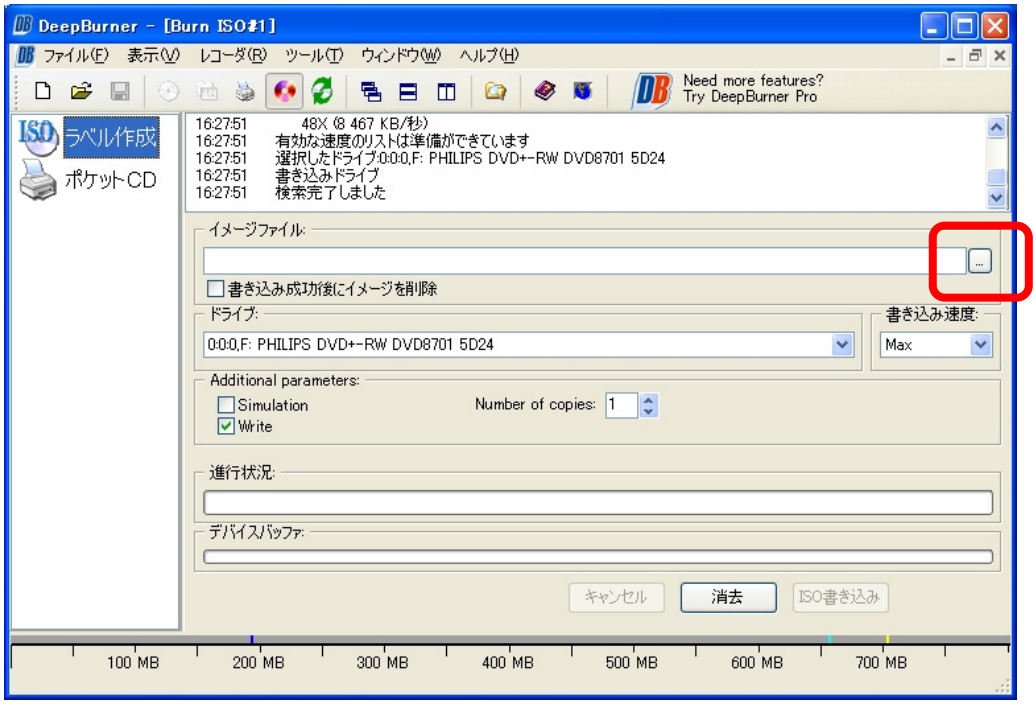
（2） ダウンロードしたファイルを実行するとセットアップ画面が表示されます。後は画面の指示に従ってインストールを完了させてください。



（3） [スタート]-[すべてのプログラム]-[DeepBurner]-[DeepBurner]を選択して起動します。起動したら、[ISO イメージの書き込み]を選択して[次へ]をクリックします。

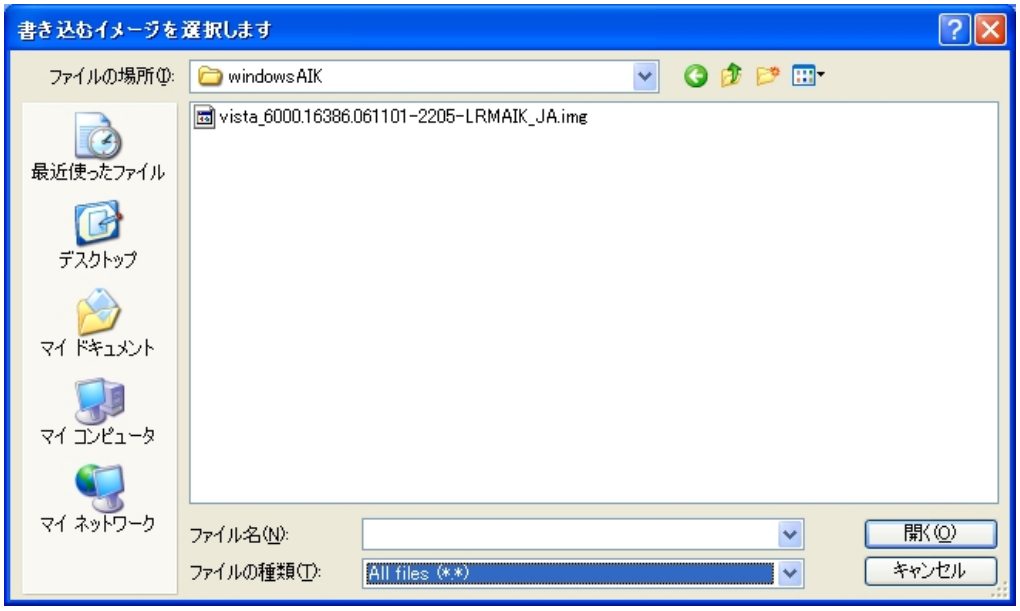


（4） 書き込むファイルを選択しますので、イメージファイル欄にある参照ボタンを押します。



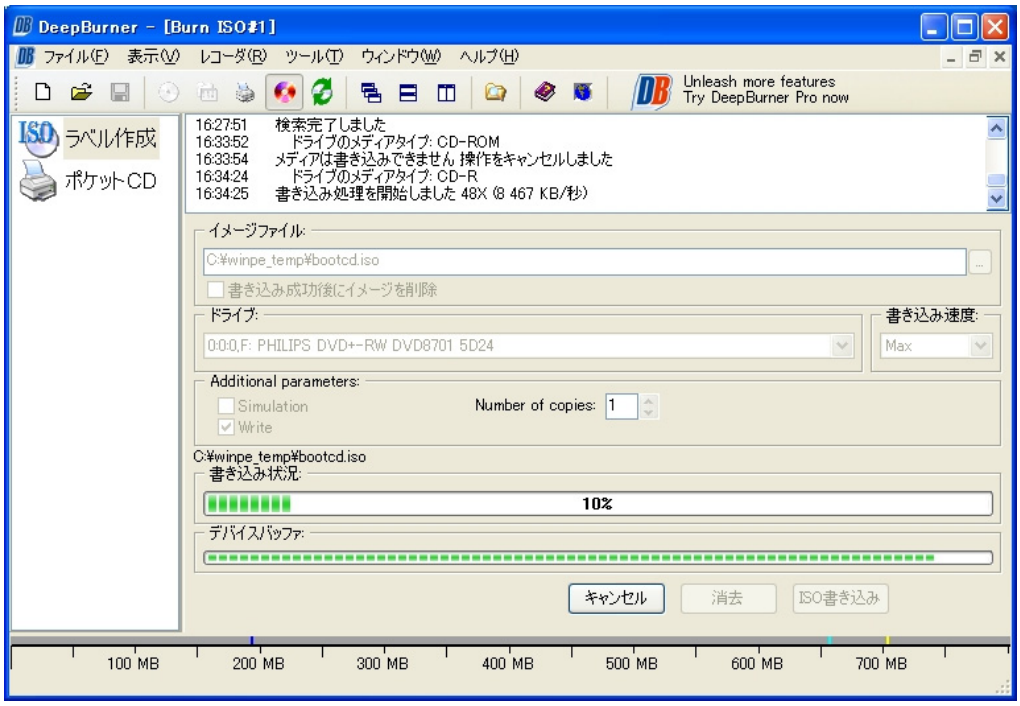
※ ウィンドウを最大化して操作してください。

（5） 書き込むファイルを選択します。選択が完了したら[開く]をクリックします。



※ Windows AIK の.img ファイルを書き込む場合には、ファイルの種類で[All files (*.*)]を選択しないと表示されません。

（6） 空の CD-R メディアをドライブにセットして、[ISO 書き込み]ボタンをクリックします。処理が開始されます。



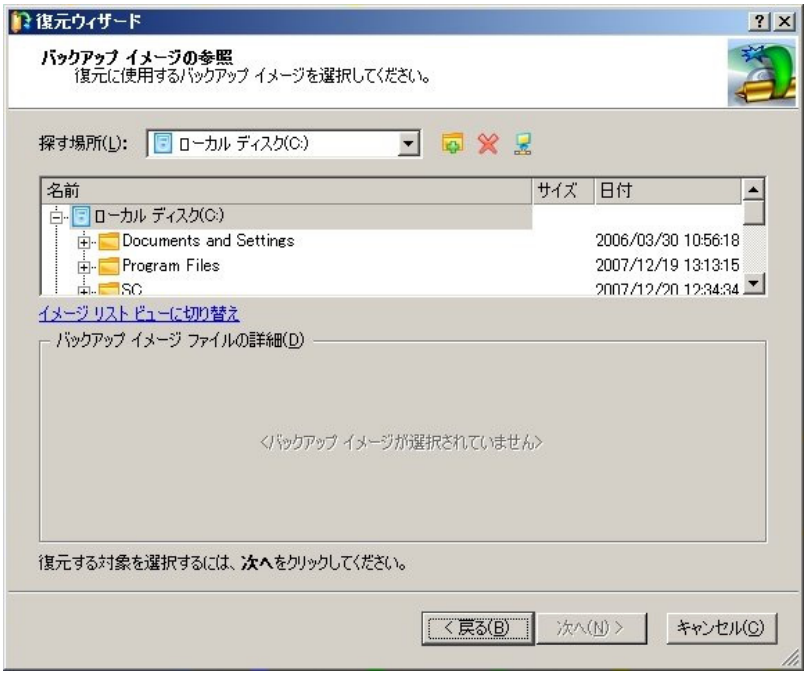
補足②　ネットワークのアクセス方法

ここでは、作成された CD から起動した際にネットワークドライブにアクセスする方法をご紹介します。

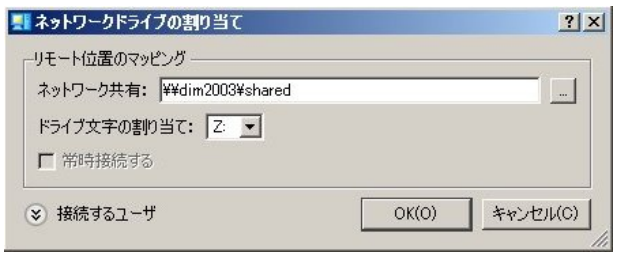
（1） CD 起動後に、『バックアップ ウィザード』か『復元ウィザード』を起動します。

（2） バックアップ先や復元を参照する画面が表示されたら[ネットワークの参照]ボタンをクリックします。

※ 復元ウィザードの場合には、[ファイルビューに切り替え]をクリックしないとボタンが表示されません。



（3） ネットワーク共有に、割り当てるドライブ名を入力します。例えば、PC 名が、dim2003 で、共有フォルダ名が、Shared の場合には、 ¥¥dim2003¥Shared と入力します。入力が終わったら「接続するユーザ」をクリックします。

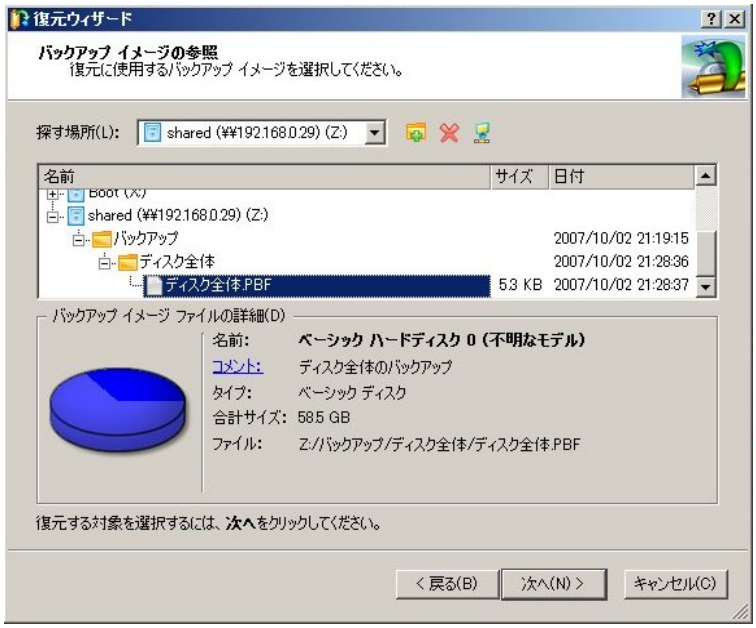


※ [...] ボタンをクリックしてもネットワークを参照することはできません。クリックすると、ネットワークドライブの割り当てができなくなります。クリックしてしまった場合には、再度 CD 起動からやり直してください。

（4） ネットワークドライブへのアクセスに必要なユーザ名とパスワードを入力します。ユーザ名とパスワードが不要な場合には、接続するユーザに guest と入力してください。入力が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

※ 以下のエラーが発生した場合には、PC 名の箇所を IP アドレスに置き換えて処理をお試しください。（例：¥¥192.168.0.5¥shared）

（5） バックアップウィザードや復元ウィザードで参照できるか確認します。復元ウィザードでは、ネットワークドライブは以下のように表示されます。



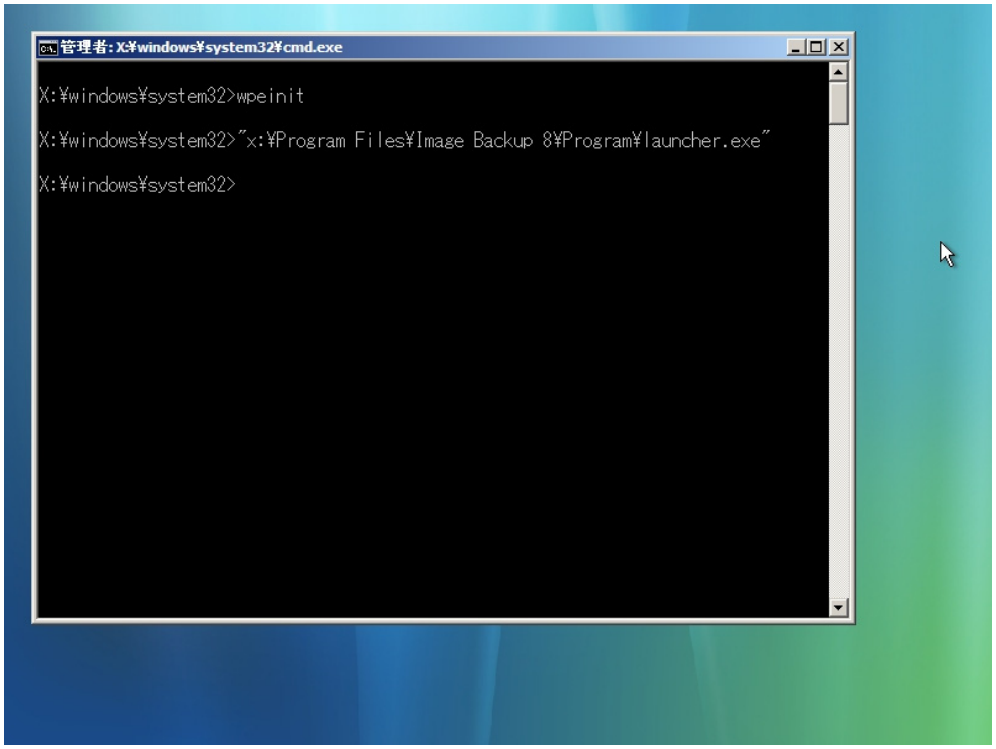
補足③　ドライバの追加方法

ここでは、CD 起動後に標準では対応できない RAID コントローラ、ネットワークカードなどを利用するために、ドライバを追加でインストールする方法をご紹介します。

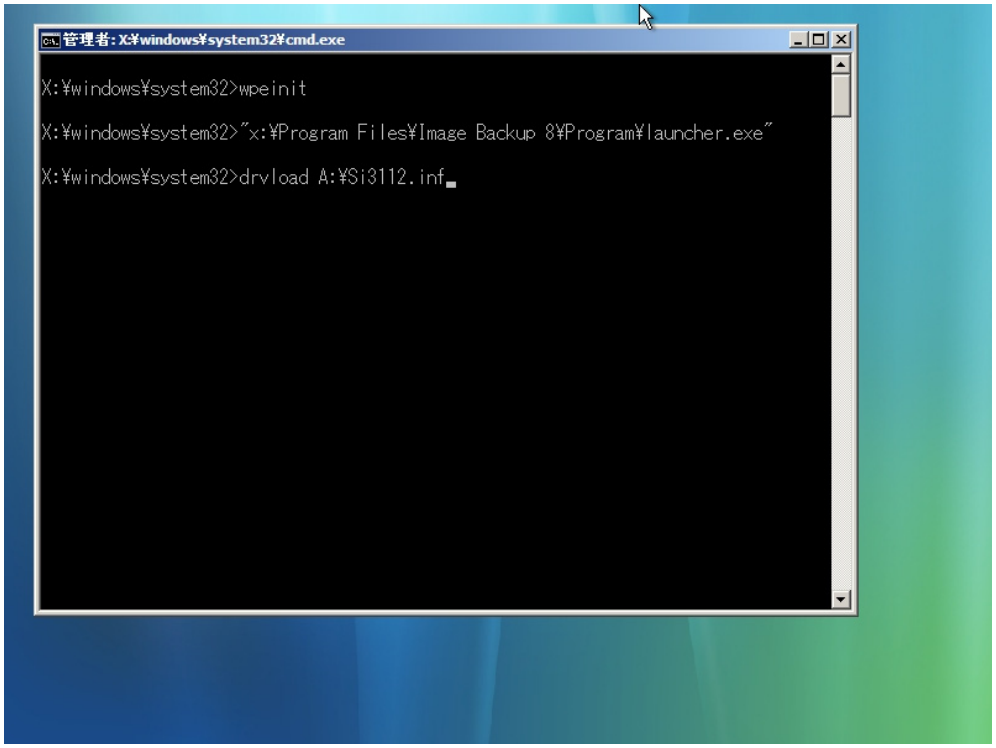
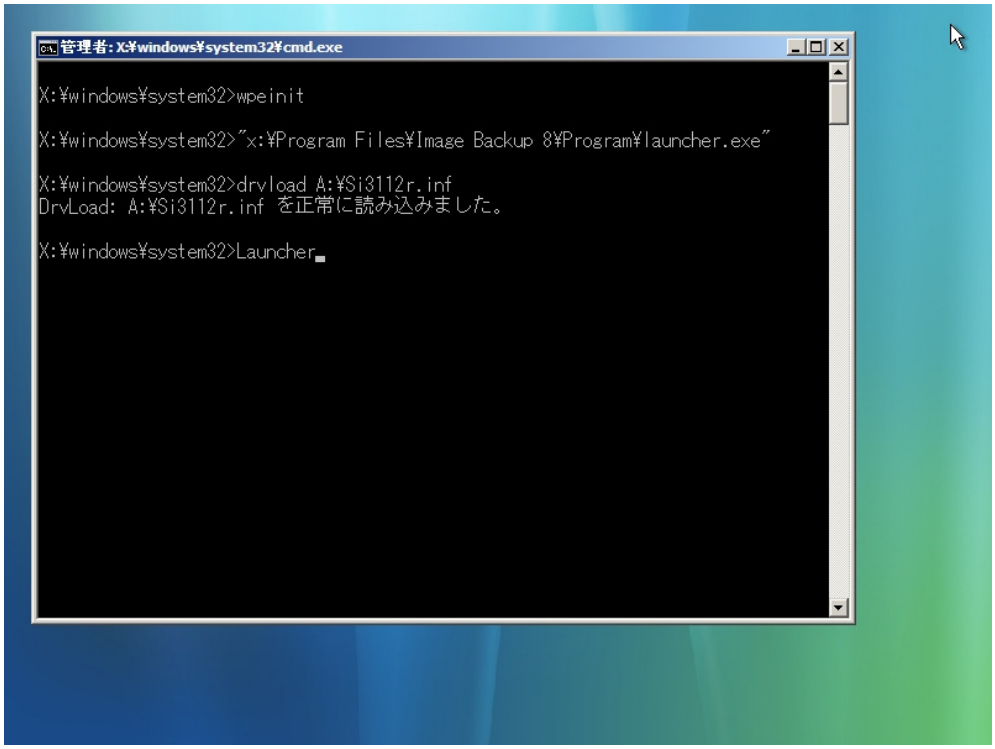
（1） 追加したいドライバファイル一式をフロッピーディスクや USB メモリなどにコピーしておきます。

（2） 製品CDから起動後に、操作画面が表示されたら、右上の[×]をクリックして閉じます。

（3） コマンド画面が表示されます。



（4） drvload コマンドを実行します。例えば、フロッピードライブのディスク内にある、Si3112r.inf ファイルを追加したい場合には、 drvload A:¥Si3112r.inf と入力して<Enter>キーを押します。



（5） 処理が完了したら、追加したドライバが正しく動作しているのか確認してください。Launcher と入力して<Enter>キーを押せば、組み込まれている製品が起動します。